**第２７回観察会　2005年６月29日(水) 12:00～12:55　小雨**

**テーマ『ツユときのこ』**

**☆ガイドレポート**

今回はきのこをテーマにしました。「きのこは秋の味覚」「きのこはじめじめ湿ったところに生える」などと思われています。また、「キノコ」と書かれる場合も多いのですが、図鑑などをよく見るとみな「きのこ」とかかれています。「ツユときのこ」と題してきのこについて考えをめぐらせました。

きのこは「真菌界」に属し、真菌の体はグルカンとキチンで構成される細胞壁をもつ菌糸によってなりたっています。きのこはこの真菌の子実体、つまり有性生殖器官のことなのです。真菌界は動物界、植物界とならぶ生物の集団で、かびや酵母の仲間も真菌に属しますが、「バイ菌」といわれる「細菌」とは全く異なるグループです。きのこは襞などの組織をもちそこに有性生殖、つまり遺伝子交流をおこなった胞子が形成されます。この真菌の子実体のうち、人間が認識したものが「きのこ」と呼ばれるのです。このように「きのこ」というのはある生物群の器官を指すもので、カタカナ表記をせず、図鑑のタイトルも「日本のきのこ」などと書かれます。

今回のテーマの「ツユ」にはもちろん、梅雨の意味があります。きのこがじめじめしたところに生えるのであれば当然、「きのこは梅雨の味覚」であり、露（水滴）ときのこは好相性のはずです。きのこは実は、梅雨時に大変多いのです。では、露とも好相性なのでしょうか。答えはNOです。きのこは梅雨時にたくさん生えるのは確かですが、雨の中や露にぬれながら生えてくるものではありません。子実体形成は、梅雨の晴れ間に太陽のエネルギーを得ておこなわれるのが普通です。

観察会当日は午前中に激しい雷雨が降り、観察会中も小雨が降っていたので、きのこが雨露にうたれて溶けたり崩れたりしている様子を観察することができました。これは傘や柄がある「きのこ型の」きのこ、担子菌の仲間に顕著な特徴で、菌糸に耐水性がないのです。ですからきのこの傘は胞子が形成された部分（子実層托）を守る、まさに傘なのです。

では「秋の味覚」ではないのでしょうか。日本の温帯地域では、梅雨時と秋の２回、おおきな発生のピークがあります。京都近辺ではさらに、春先にも初冬にもきのこが採れる時季があります。すると、秋の味覚でもある、というのが正しそうです。しかし実際に市場に出回るきのこは、いずれも管理された温度条件下で培養、栽培されており、１年中手に入ります。結局、秋のものとして限定されるのは人工栽培が不可能なマツタケだけで、１０月にアカマツの林などに発生するきのこです。

売られているきのこのうち、たとえば野生のシイタケは春、エノキは冬、キクラゲは冬から早春がそれぞれの発生時季（旬）です。「きのこは秋の味覚」というのは「京のマツタケ」の呪縛がひきおこす錯覚であると私は考えています。いずれは、京都のきのこを旬に味わう、という観察会を開催し、このマツタケの呪縛から脱却してみたいと考えています。

ガイド：今村彰生さん（大学共同利用機関法人総合地球環境学研究所）

**☆参加者の感想**

参加者の感想文です。実名・匿名の指定がないかたはすべて匿名にいたしました。ご了承ください。

* もう少し長い時間観察会が行われるとさらに勉強になると思いました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所にお住まいの京大関係者　西川真理さん）
* 久し振りに（10年以上前）キヌガサタケを見ました。満足です。　　（安井尚さん）
* よく解りました。ありがとうございました。　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 気持ちの良い植物園でした。　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 家を出た時晴れていて、バス停で大雨、まよいながらやって来ました。きのこのことはあまり知りませんでした。少し見る目が変わりました。来月を楽しみにしています。　　　　　　　　　　　　　（今井教さん）
* 曼殊院キヌガサタケ名前がついて良かった。　　　　　　　　　　（近所にお住まいの京大関係者　關かつみさん）
* 珍しいきのこが観察できて感動でした。ありがとうございました。（近所のかた）
* きのこ、竹やぶの下、白いアミをかぶった様な。始めて見ました。（近所のかた）
* きのこが雨を嫌う理由もわかってよかった。冬虫夏草が京都にあったなんて～♪　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* キヌガサタケが見られたのがうれしい！水とキノコの関係を再認識しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* 雨が降っているのも（この程度であれば）すずしくてよい感じでした。水滴にぬれた葉のみどりが美しい。　　　　　　　　　　　　（近所のかた）
* きのこについてよくわかりました。雨との関係とか特に。それから半夏生の葉におどろきました。　　　　　　　　　　　　　　　　（近所にお住まいの京大関係者のかた）